

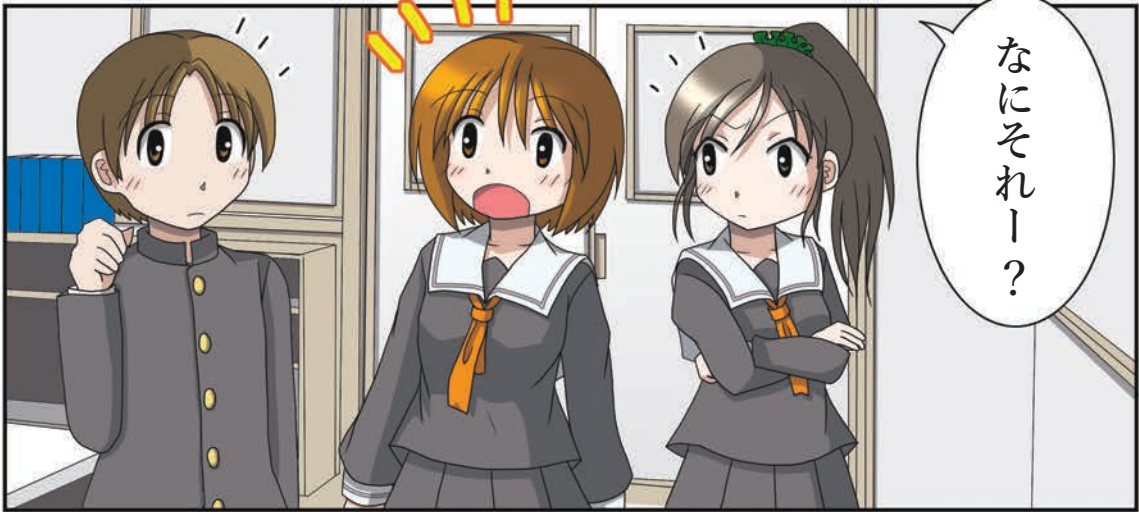
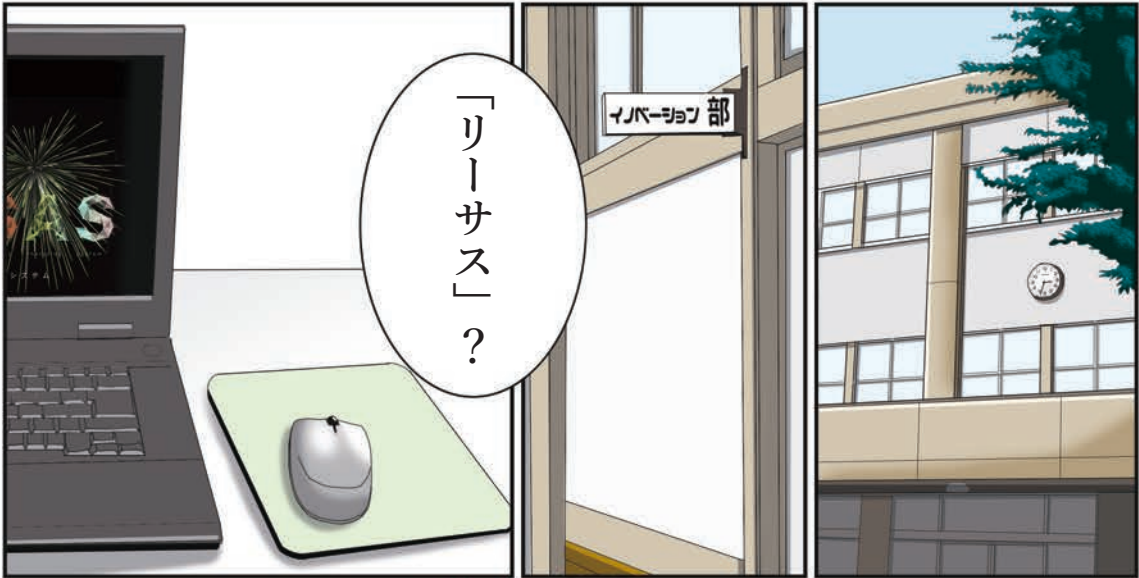
そうだったのか!

RESAS

リリース

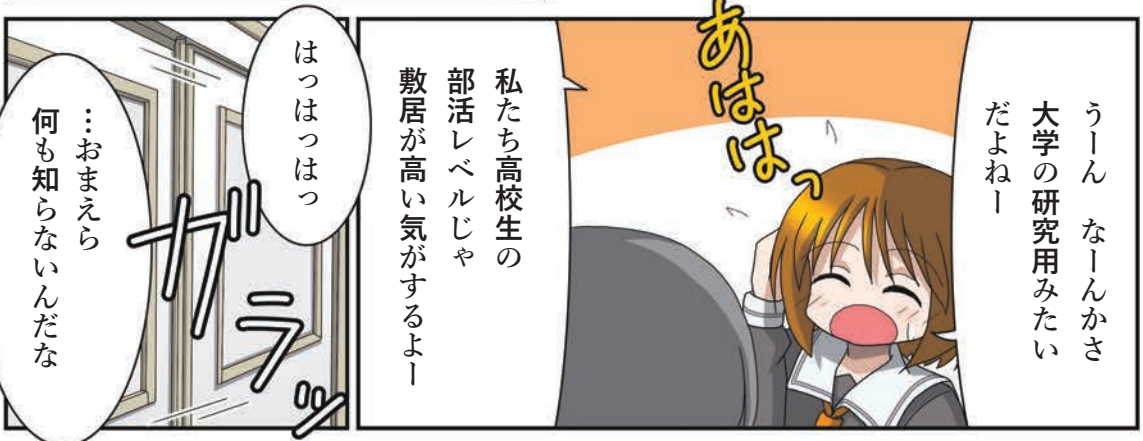
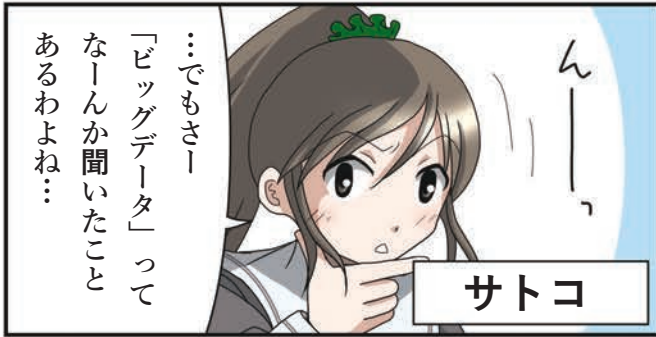
わかる私たちの 地域

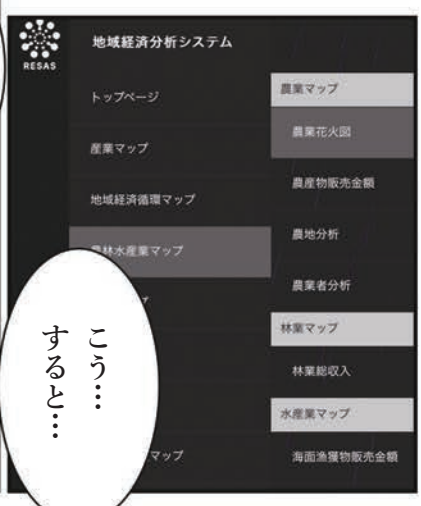
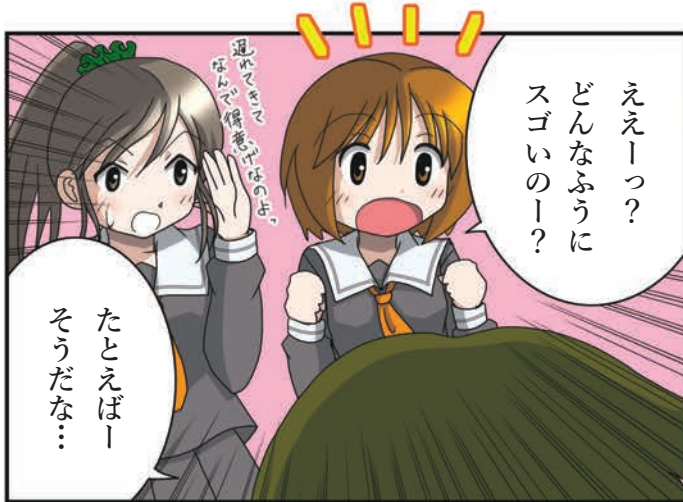




……地方自治体の様々な取り組みを
情報面から支援するために
「まち・ひと・しごと創生本部事務局」が
提供する産業構造や人口動態、人の流れ
などの官民ビッグデータを集約して
可視化する地域経済分析システムだよ



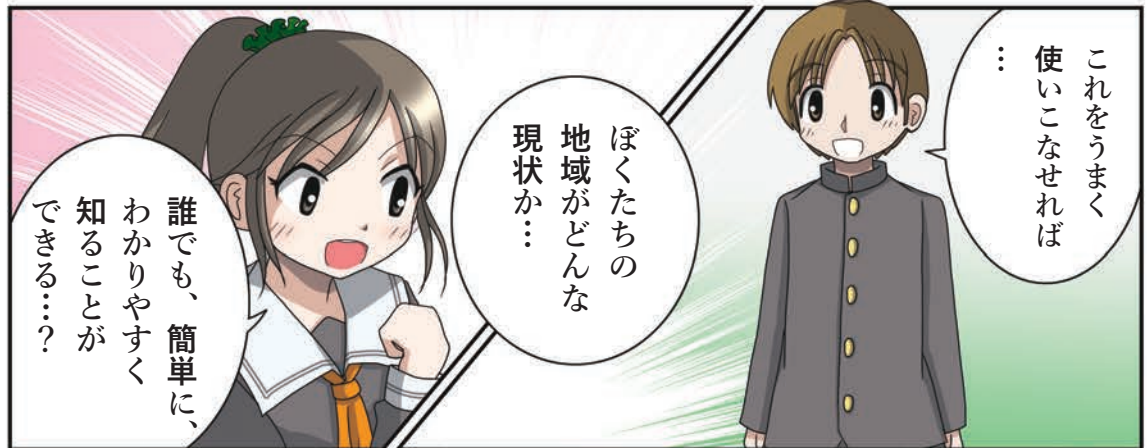




どうだ? 俺たちの
住んでる地域のいろんな
データがこうやってすぐに
「見える化」されるんだ

わっ!
ぱっ!

こう...
すると...



リーサスとは何か

皆さんの住んでいるまちをもっと元気に！

最強ツール『リーサス』を手に、 地方創生に挑戦しよう

**日本の課題、
地方創生に皆さんの力を**

地方創生。それは、いま、全国の自治体が向き合っている課題です。

20世紀の終わり頃から急速に進行してきた少子高齢化のために、日本の人口は2008年をピークとして減少に転じました。年齢別の構成を見ると、働く人の大多数を占める生産年齢人口（15歳～64歳）の割合が、1995年の約70%から2015年には約60%となり、このままのペースが続けば2050年には、50%近くにまで下がると予想されています。人口減少の影響を真っ先に受けるのは誰でしょうか。

それは地方です。人が増えていく世の中に合わせて作られてきたまちから人影が減り、働き手の不足でまちを支えてきた産業が衰退し、物を買う人が少なくなるために店をやっていることが難しくなったり、まちはさびれてしまいます。中高生の皆さんが社会の中心的存在となる20年後には、存続の危機を迎えているかもしれないまちがたくさんあります。

これを放っておくわけにはいきません。

だからいま、地方創生なのです。国と地方がそれぞれの力を発揮して、日本の未来の予想図を明るくものに書き換えようとしているのです。10代の皆さんも、ぜひ、この挑戦に加わってください。

**地方創生のために作られた
最強ツール、リーサス**

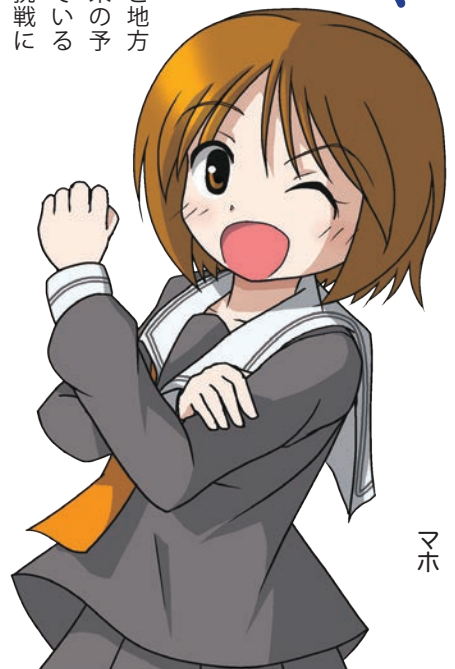
リーサス(RESAS)は、地方創生にチャレンジする人々のために作られた最強のツールです。

リーサスを使えば、自分が住んでいるまちのことを、高い空から見下ろすように一瞬で把握することができます。

赤外線を照射したかのように、本来肉眼ではとらえることのできない「動き」や「関係」を「見える化」することができます。

まちとまちとの生き物のようにつながりも鮮明に浮き上がらせることができます。

つまり、このツールがあれば、まちを元気にするためのポイントを、すばやく直観的に知ることができるのです。そしてこんな役に



マホ

立つツールを、パソコンがあれば、誰でも簡単に使いこなせます。

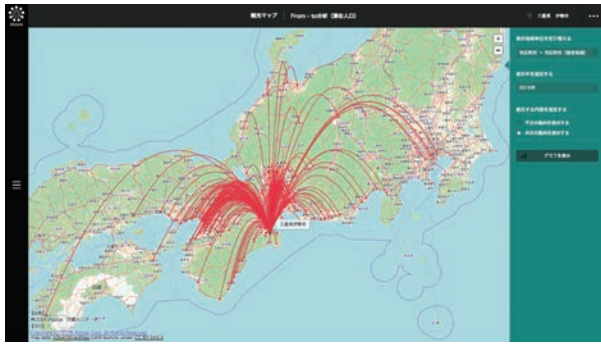
リーサスに興味を持ってもらえたでしょうか。それでは、リーサスの正体をもっと詳しく説明しましょう。

**必要なデータは
リーサスに揃っている。
そこがスタートライン**

リーサスは地方創生に必要な多種多様な膨大な情報を網羅したビッグデータです。

そこには人口・産業・観光に関する信頼性の高い統計資料が揃っているだけでなく、個人が持ち歩くスマートフォンGPS機能のベースとする、普通では得られない集積データなども見ることができます。

皆さんは学校で取り組んだ探究活動や調べ



皆さんのまちを訪れている人々がどのまちから来ているかを把握できます（観光マップ）

リーサスはすべてのデータを、わかりやすく「見える化」したグラフやモデル図で画面に展開します。これなら単なる数字の並んだ表とちがって、まちのさまざまな顔、強いところと弱いところ、まちを元気にするポイントは何かを、瞬時に、直観的に把握することができます。

**すべてを「見える化」。
直観的にわかるから
アイデアが湧く**

学習で、資料探しの苦労を経験したことがあると思います。知りたいことがどこにあるか探るのが大変。しかもびったりのデータがないことも……。たとえ見つかったも、データの形式はさまざまで理解するのが大変。自分の目的に合わせて加工するのも大変。そのすべての作業が完璧に終わった状態で使えるのがリーサスです。皆さんのまちを知るために必要なデータを、簡単な操作であっという間に画面に呼び出すことができます。いわば、地方創生専門のランブの魔人のようなものです。リーサスに命じて、まず、まちの現状をしっかりと把握してください。そこからすぐに分析やアイデア探しにとりかかることができません。

だから、「ここはどうなっているんだろっ」と次につながる疑問が浮かんだり、以前に見た何かと似ているという連想が働いたりということが起きます。これがリーサスの最大の強みです。

**知りたいことがすぐ見える。
簡単操作で思考が加速**

リーサスの操作はとても簡単です。慣れるのにも時間はかかりません。パソコンがそんなに得意でなくても、30分もあればかなり自由に動かせるようになるでしょう。困ったときのために、とてもわかりやすい動画での使い方の説明も見られるようになっています。実際に触ってみるとわかりますが、画面を見ながら少ない操作で気持ちよく展開させていくことができます。思考のスピードにびったりついてきてくれるから、アイデアが浮かんでくるし、それを育てやすいのがリーサスの特徴です。

**まちとまちのつながり、
他のまちのことも
はっきり見える**

リーサスには日本全国の市区町村のデータが集積されています。それを使ってまちとまちのつながり方を「見える化」することができます。人はこのまちにどこから来てどこへ行くのか。

このまちで作られたものはどこで売られているのか。

そのような本来目に見えないものをリーサスで目の当たりにしてください。

また、このまちと似た他のまちの事例やアイデアを参考にすることもできます。

**鳥の目から虫の目へ。
基礎データで思いつきを
検証し具体化する**

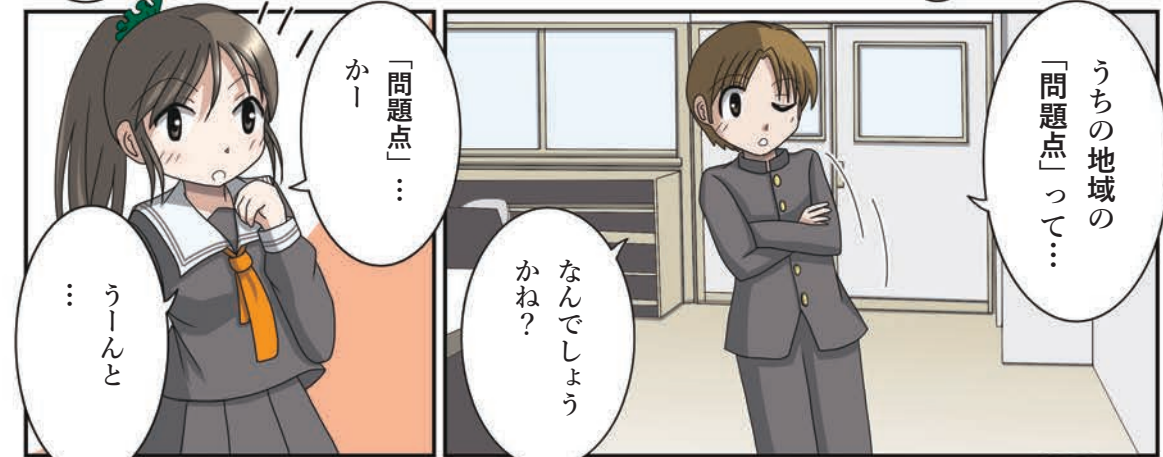
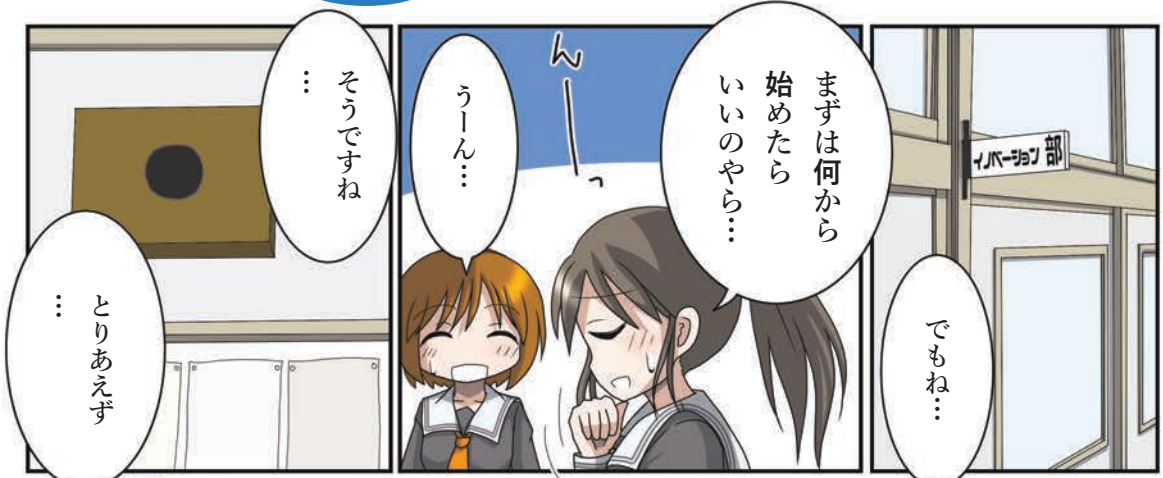
直観で何かを見つけたとき、あるいはグラフを見て何かを思いついたとき、次に必要なのはディテール（詳細）の情報です。リーサスでは鳥の目から虫の目に降りていくように、より具体的に詳細な情報を取得することができます。現実の入り口まで降りていくことができるのです。

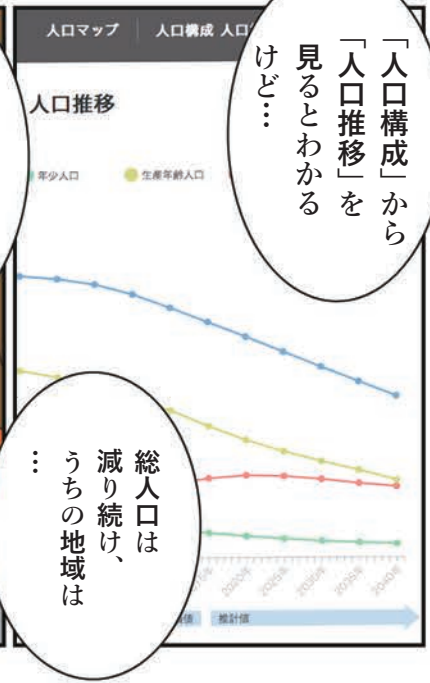
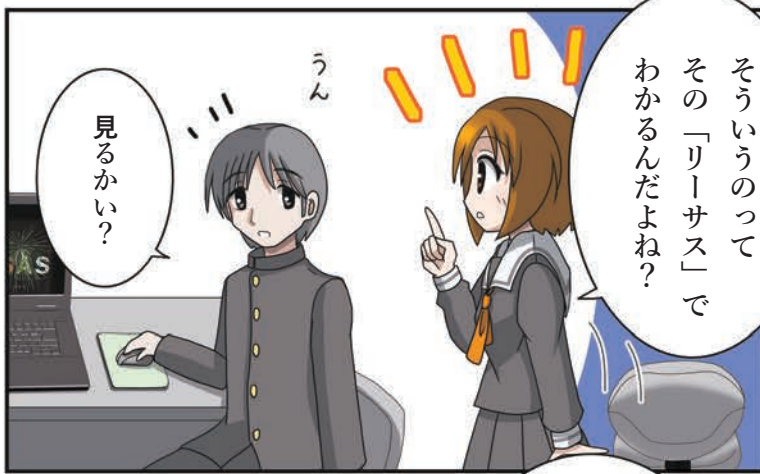
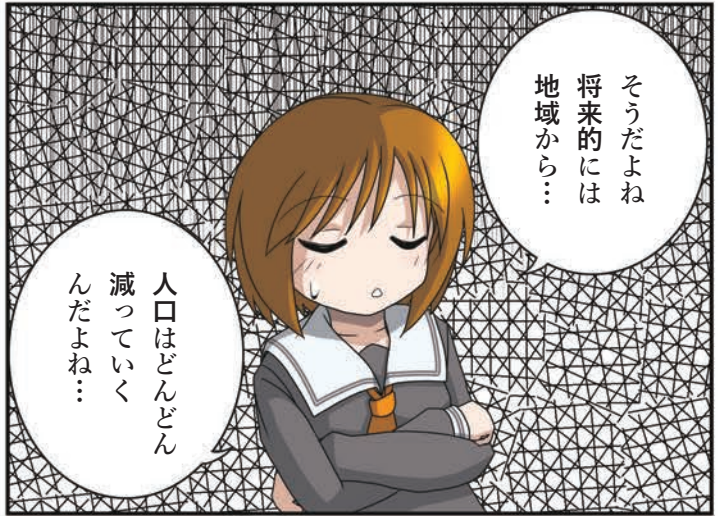
ここから先は、リーサスを離れて、もっと細かいレベルでまちのことを調べたり、いろいろな人に会って現場の話聞き取ったりする段階に入っていきます。リーサスで得た一片のアイデアを、効果的な政策提言にしっかりと育てていきましょう。

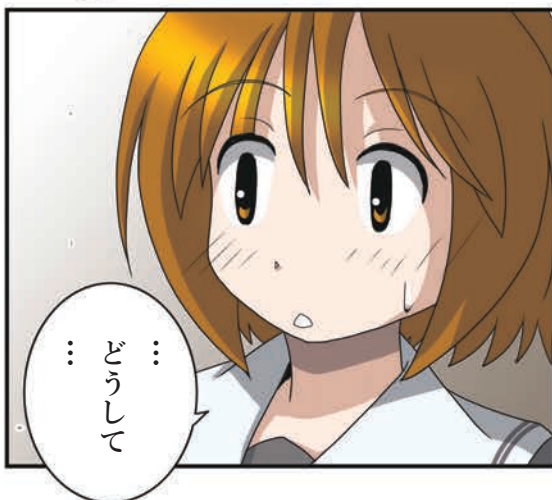
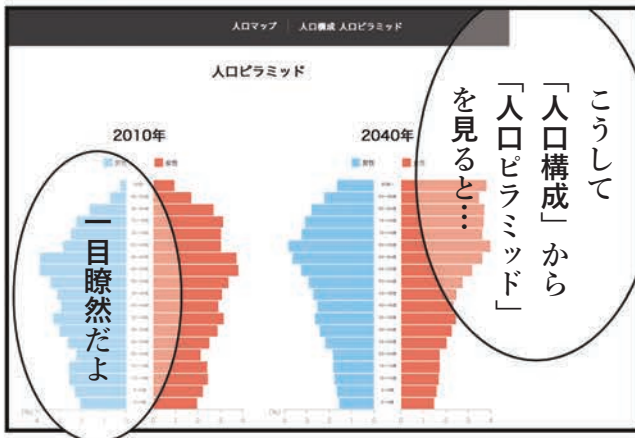
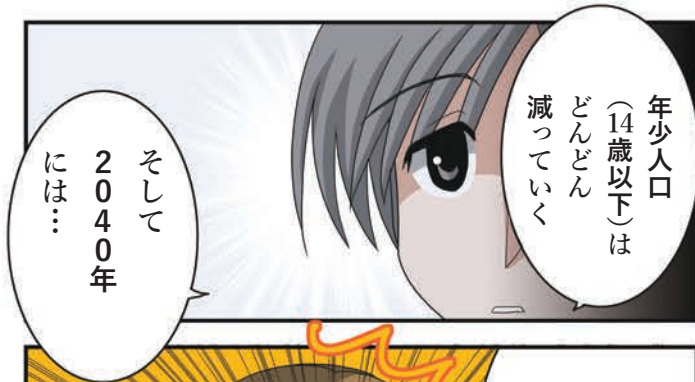
リーサスはまちづくりのゲームに似ているかもしれません。

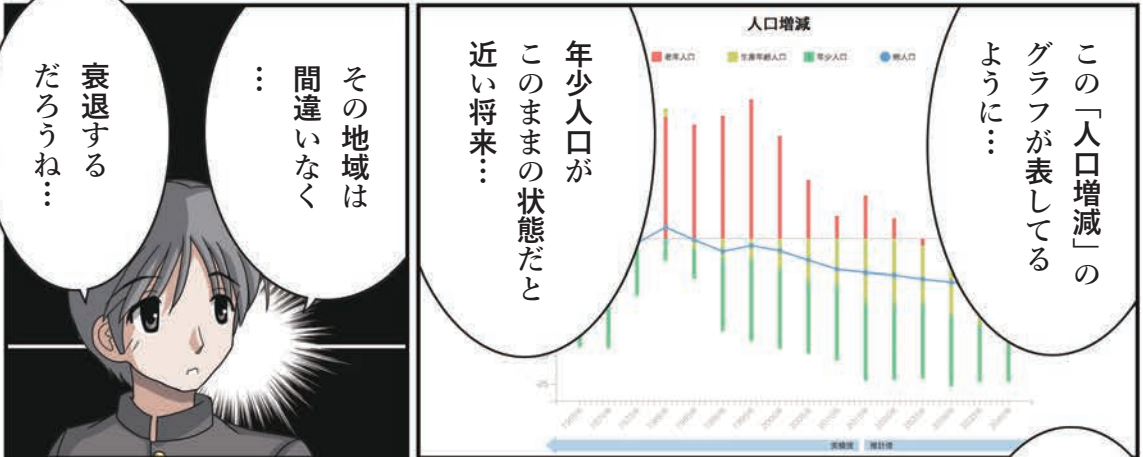
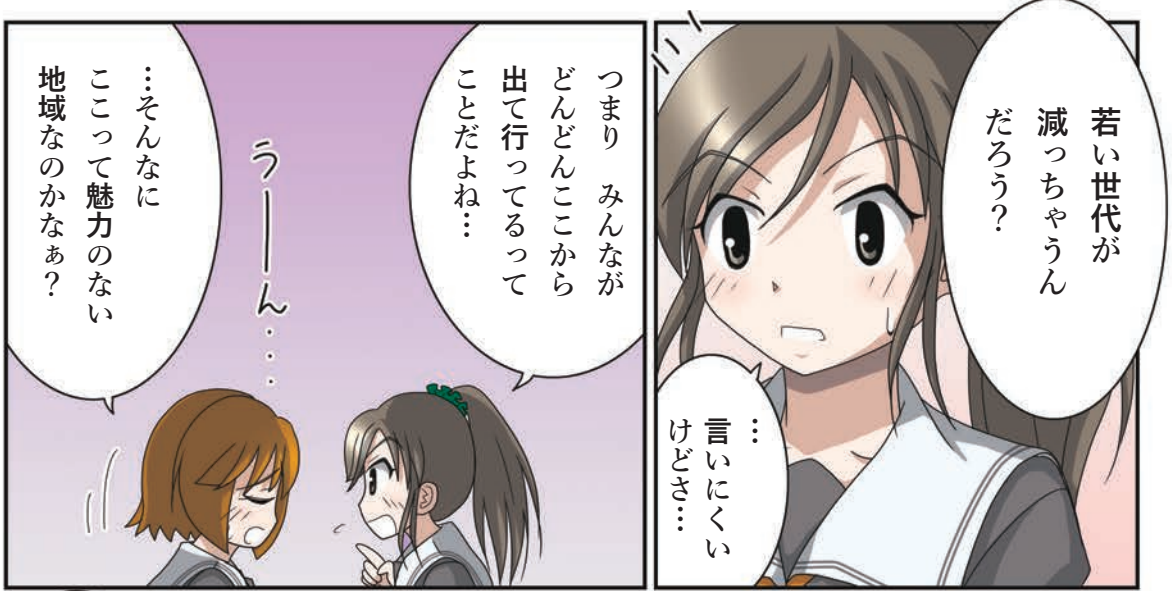
しかし、画面に出てくるのはすべて現実の数字です。

皆さんの地方創生のチャレンジの対象は、今皆さんが住んでいるリアルなまちなのです。









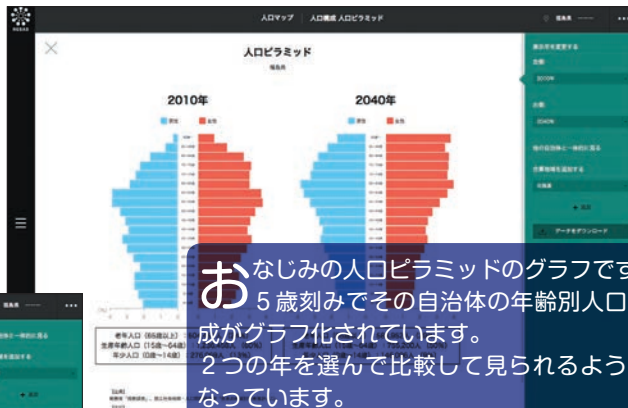
リーサスは、トップ画面から数回のクリックで見たいグラフを表示することができます。リョウタは「人口マップ」の中の3種類のグラフを画面に呼び出しました。その手順を見てみましょう。



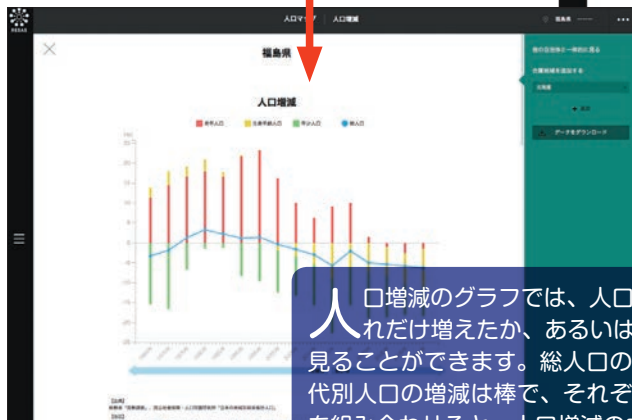
人口推移 (グラフ)



人口ピラミッド (グラフ)

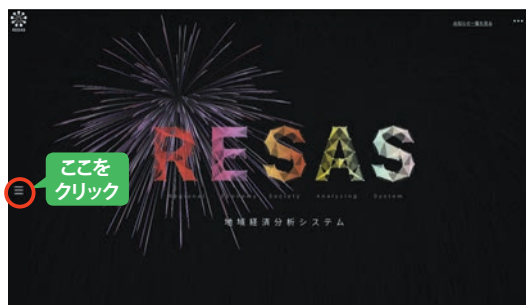


人口増減 (グラフ)



リーサス『人口マップ』の使い方

トップページ



人口マップ画面



基本画面



人口構成 (マップ)

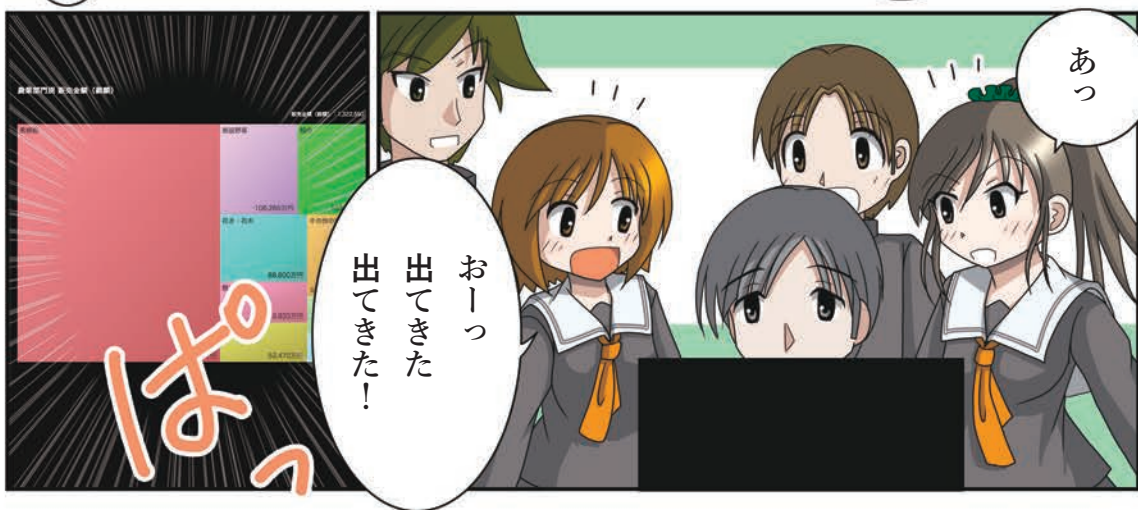
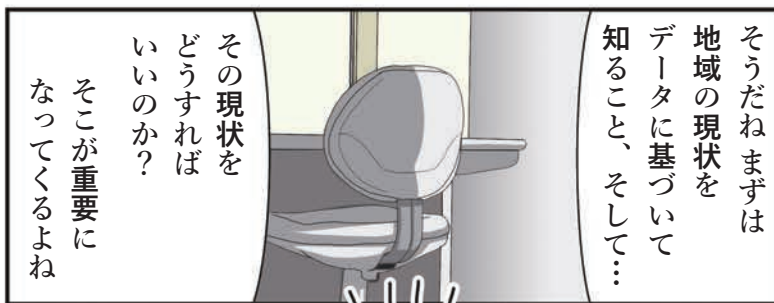
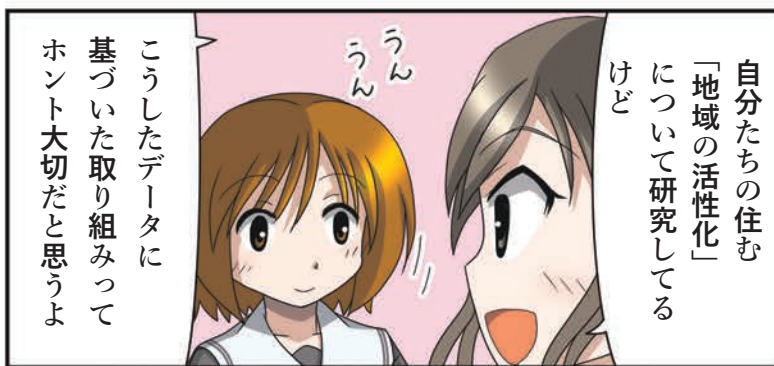


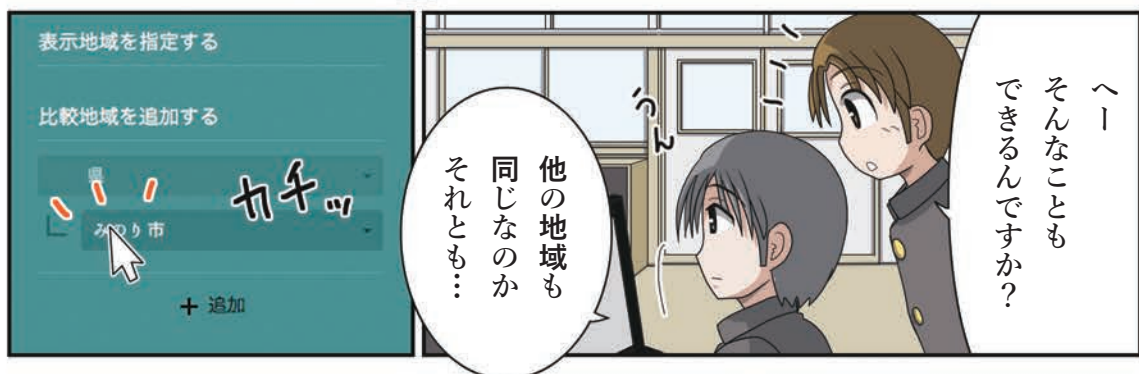
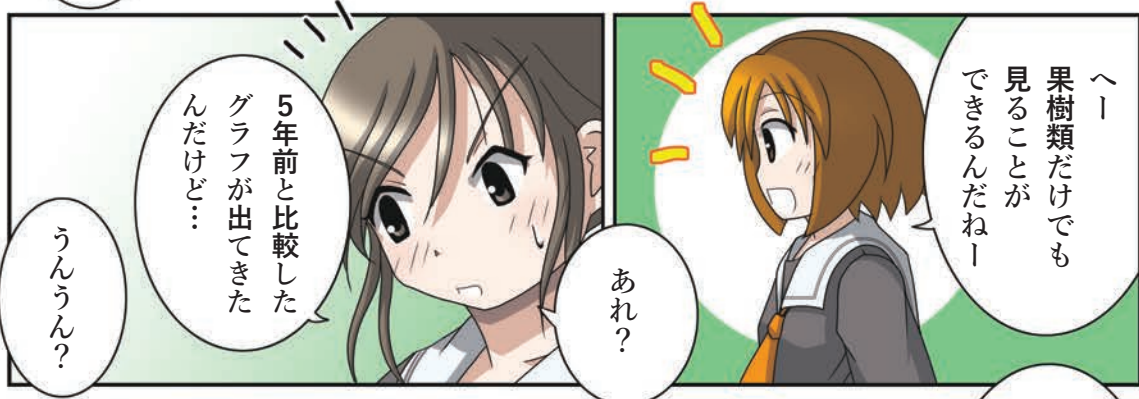
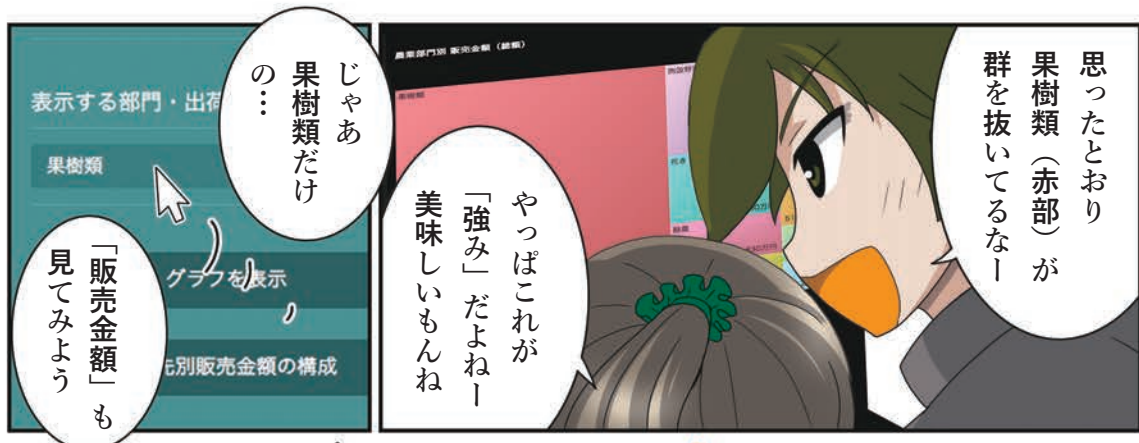
人口増減 (マップ)



リョウタ

操作でわからないことがあったら、
右上の「…」をクリックして、出てきたメニューから「操作マニュアル」
を選ぶと説明が見られるよ。

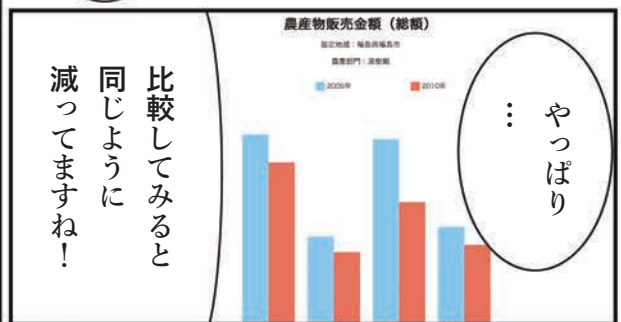




販売金額減少
つまりは
生産量の減少って
…

地域に関係なく
人口の減少に
比例してること
でしようか？

あ…



…そうね
年少人口と
生産年齢人口（15〜
64歳）が
減少してきて…

…ひよっとして
原因は
「高齢化で農業を
やめる人が多い」
ことと…

そのぶん
老年人口が
増えてるって
ことは…

そして
「後継者が少ない」
ってことなのかも…

安い輸入果物の影響

それと実はうちの
祖父も果樹農家
なんだけど…
こういった理由で
年々果物の消費量が
落ちて価格も
下がってるらしい

**果樹木更新時の
新品種の未開発**

あああつ
後継者不足と
収入減の
ダブルパンチ
だー！

消費者の嗜好の変化



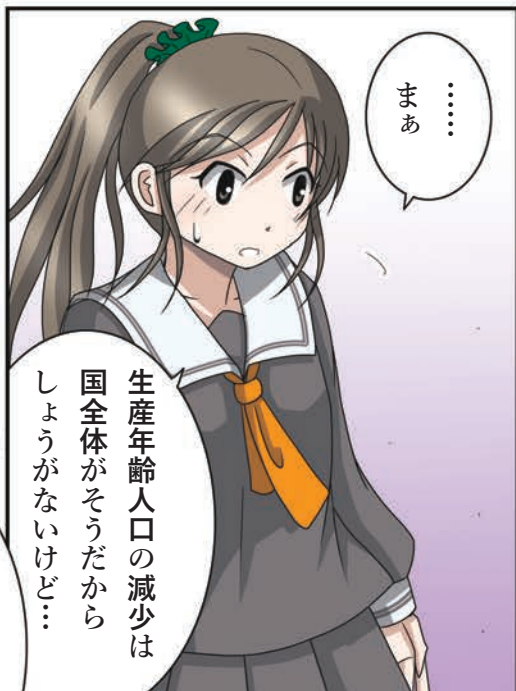
…ってことは
地域の
「強み」だと
思ってたものが…

じつは
弱くなってる
ってことか…?

消費者の嗜好^{しこう}の変化は
たしかにそうですよね
果物よりお菓子を食する
ほうが多いですし

私は
どっちもいっぱい
食べるけどねー?

は



…
まあ

生産年齢人口の減少は
国全体がそうだから
しょうがないけど…



つまりは…

これから
生産年齢人口が
減少していく中…



どうやって
商品価値を
高めていくかって
コトだね…

イノベーション部、
現実思ったよりも
厳しいようです…



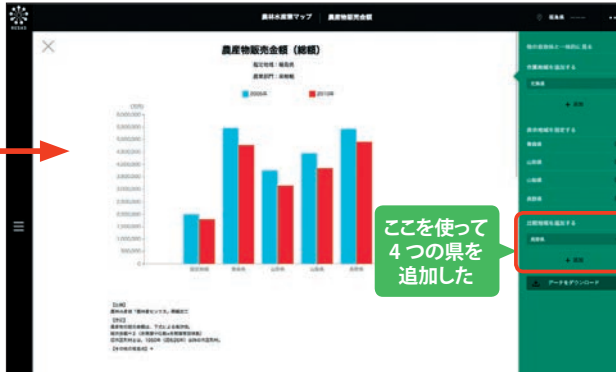
それに伴う
消費量と価格の
下落については…

なんとか
できないの
かしら…?

『産業マップ』の使い方

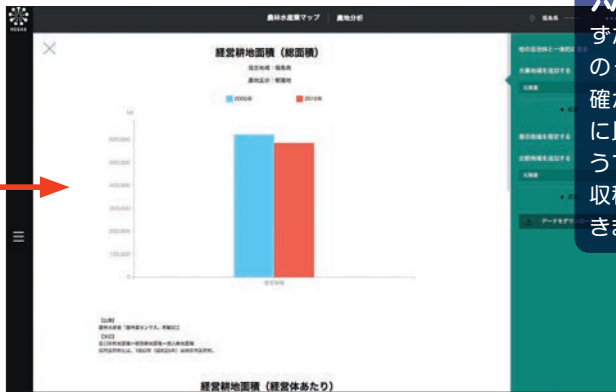
「農林水産業マップ」は情報量が多いのが特徴です。とくに農業関係は充実していて、ひとつのテーマをさまざまな角度から見るができます。ここでは、福島県の果物の生産という切り口で、どんなグラフやモデル図を呼び出せるか試してみましょう。「産業マップ」も併せて使ってみることにします。

農産物販売金額（グラフ）



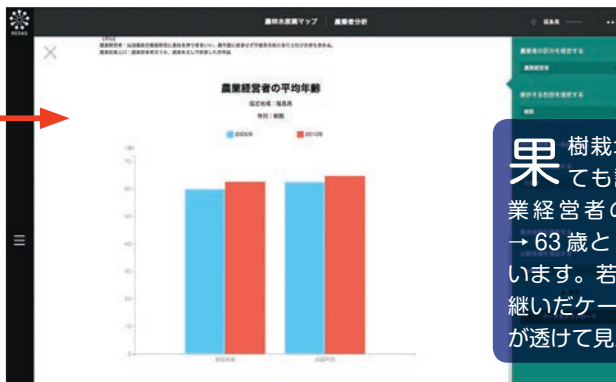
果物の生産で有名な青森県、山形県、山梨県、長野県を福島県と比較してみました。どの県も同じように、2005年→2010年で販売額が減少しています。どうやら共通の要因が働いているらしいことがこれでわかります。

経営耕地面積（グラフ）



販売額が減っているなら農地の面積も減っているはずだと考えて、「経営耕地面積」のグラフを表示してみました。確かに減っていますが、生産額に比べて面積の減少は小さいようです。よって、価格の下落が収穫量の低下が起きたと推測できます。

農業経営者の平均年齢（グラフ）



果樹栽培に携わる人についても調べてみました。農業経営者の平均年齢が60歳→63歳と5年で3歳上がっています。若い人に果樹園を引き継いだケースは相当少ないことが透けて見えます。

農林水産業マップから産業マップに移るときは、画面左端の☰をクリックしてね。



リーサス『農林水産業マップ』

トップページ



農業花火図



それぞれの品目の販売額のちがいを、色分けされた四角形の面積で直観的に把握できます。マウスポインタを上に乗せるとその品目の金額も表示されます。福島県では、コメに次いで果物の販売額が大きいことを確認できました。



農産物販売金額 (マップ)



輸出入花火図 (マップ)



農地分析 (マップ)



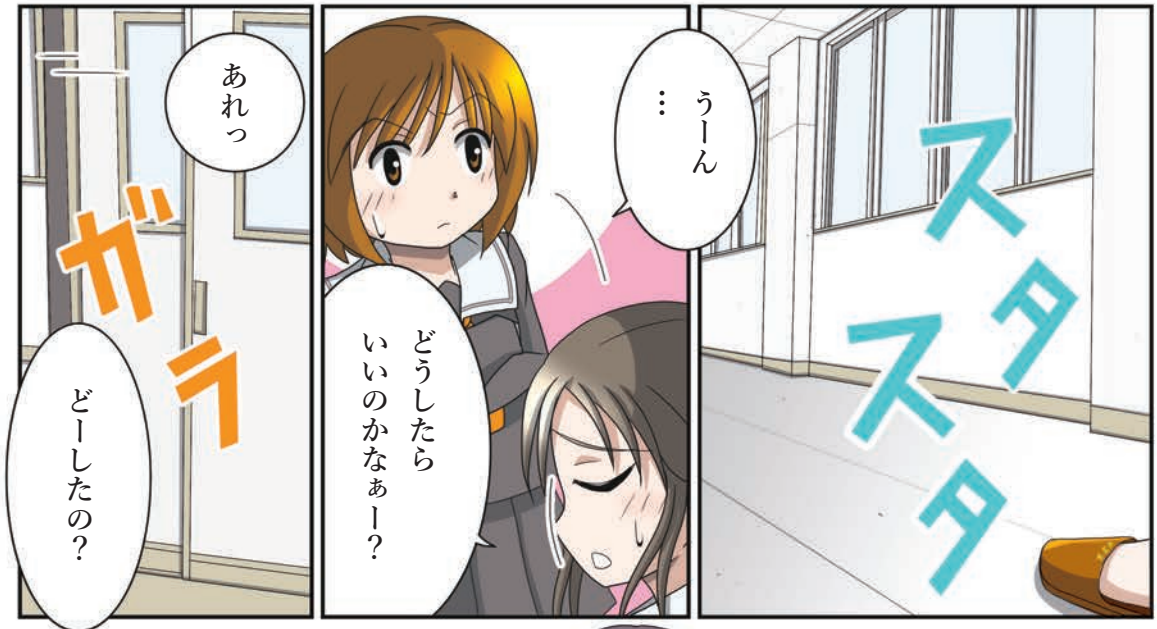
輸出入金額の割合 (グラフ)

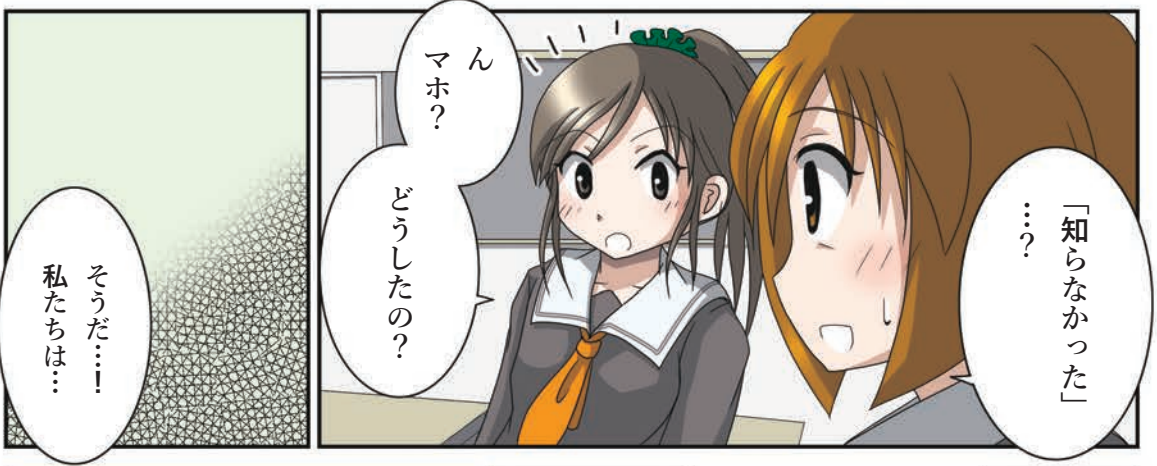
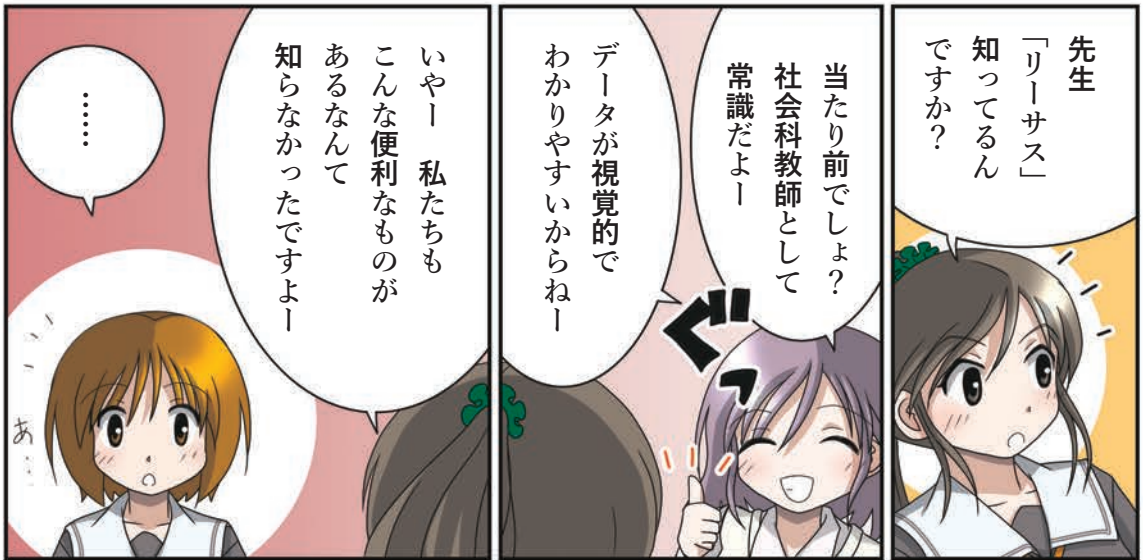


この食には人気があると聞きますが、果物はどこに多く輸出されているのでしょうか。『産業マップ』から『輸出入金額の割合』を見てみました。輸出はアメリカ、中国、韓国、台湾が多くを占めます。しかし、輸出額は輸入額に比べて10%以下です。

農業者分析 (マップ)









地域経済分析システム

トップページ
産業マップ
地域経済循環マップ
農林水産業マップ
観光マップ
イベントマップ

じゃあ
実際の観光客の
数と…

そしてどこから
多く人が訪れて
いるのかを
調べてみよう

「リーサス」は
観光データも
調べることができるんだ

うっわーっ？

なんでも
アリだねー！



まあ
「知られていない」
ってことが
最大の原因だよなー

あとさー
外国人観光客も
少ないよなー

遠いところ
からは…
ほぼ来てくれて
ないですね…

…
やっぱり…

「どうしたら
知ってもらえるか？
どうしたら
来てもらえるか？」

この「リーサス」で
得た現状を踏まえて
観光プランを考えて
いこうよ！

どう？
思ってた以上に
「知られてない」
ってことを知った
よねー？

つまりここに
課題があると
思うんだよ！

おーっ！

「リーサス」を
使って調べてみよう！

ようしっ！
じゃあどんどん
「リーサス」を
使って調べてみよう！

こうして
イノベーション部は
「リーサス」に
よって動き出した
のでした！

がんばれー！

滞在人口率 (マップ)



滞 在人口率で市町村を色分けした地図です。滞在人口率とは、ある市町村に2時間滞在した人の数を住民の数で割った数値です。したがって、にぎやかな人の集まるまちは大きな数字となり、あまり人が訪れないところは小さな数字となります。また、分母となる住民の数が少ないと、少し人が来ただけで大きな値になることもあります。佐渡市は2015年の休日が13.63で、これは他の離島と近い数値です。

滞在人口月別推移 (グラフ)



滞 在人口を平日と休日別々に折れ線で表示しています。平日が佐渡市の住民数に近く、休日には観光客が加わるので、2本の折れ線の差が大きい月は週末にぎわったとみることができます。秋の行楽シーズンが終わった後の冬の落ち込みが課題のようです。

メッシュ分析 (マップ)



メッシュ読み込み (拡大後)



メ ッシュ分析とは、まちを一边500mの正方形に分割し、いつどこに何人の人がいたかを色分けによって「見える化」したものです。青い丸は観光資源のある地点です。この画面での設定は8月の休日午前11時です。居住者等との判別が必要ですが、両津港周辺や繁華な中心街の他、佐渡金山などにも人が集まっていることがわかります。

このブックレットで紹介している機能はリーサスのほんの一部だ。ほかにもたくさんの機能があるから使ってみよう。

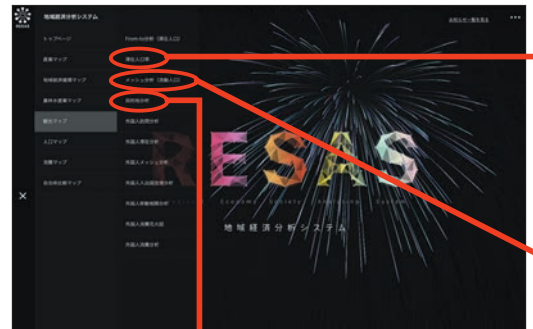
ユウキ



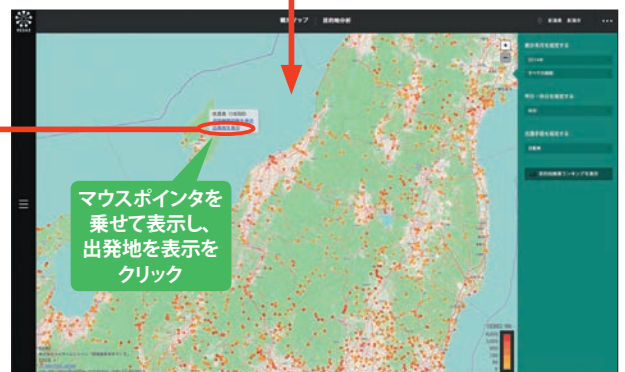
リーサス 『観光マップ』 の使い方

リーサスでは、スマートフォンのGPS機能等を用いた位置情報によって、人の移動を時間・空間ともに細かい単位で把握し、これを「観光マップ」の観光客の行動の「見える化」に活かしています。「滞在人口」や「メッシュ分析」といった耳慣れない用語が出てきますが、グラフを見ればその意味を理解することは難しくありません。ここでは、新潟県佐渡市を対象に、主な機能を見ていきます。

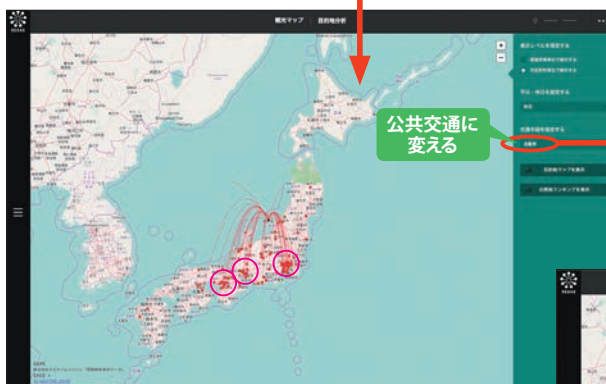
トップページ



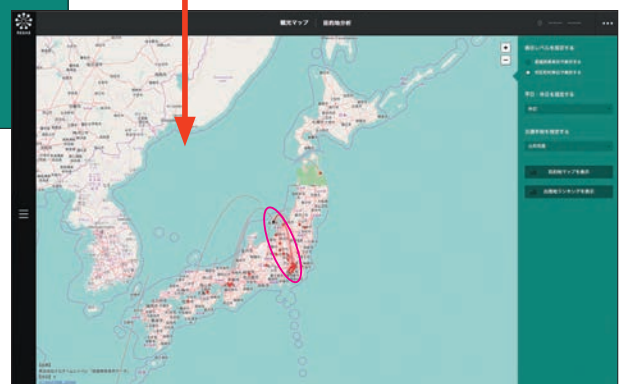
目的地分析 (マップ)



交通手段 自動車 (マップ)

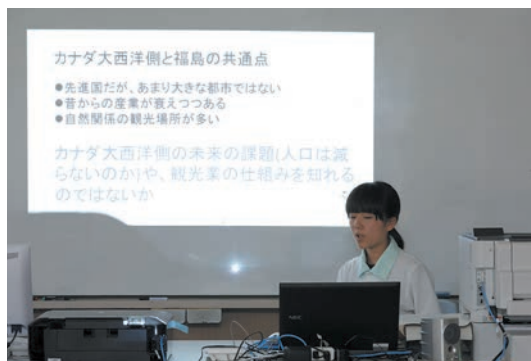


交通手段 公共交通 (マップ)



観 光客はどこから来るのかを調べてみました。自動車を利用しフェリーで来るのは東京・名古屋・大阪の大都市圏の人が中心です。公共交通も見てみると、上越新幹線沿線からが大半でした。

リーサスを活用して地域を知る、地方創生を考える 福島市立岳陽中学校イノベーション部の活動



まんがのモデルになった福島市立岳陽中学校イノベーション部は、東北、福島の地方創生を考える活動に取り組んでいます。

その中で、政策アイデアづくりに欠かせぬツールとして活用しているのがリーサスです。

「地方創生☆政策アイデアコンテスト」で地方創生担当大臣賞に輝いた部員の皆さんに、リーサスとの出会い、リーサスの日常的な活用のしかたについて聞いてみました。

イノベーション部はどんな活動をしているのですか？

山貝 地方創生のために中学生に何ができるかを考えて実践します。主に福島市のことを調べてわかったこと、理解したことなどを発信しています。3年間の特設部で、来年の夏に行われる国際ラウンドテーブルのために東北の創生についての提言をまとめることが大きな目標です。

今日の活動でもリーサスを活用していましたね。使い始めたきっかけはなんでしよう？

八巻 去年、角田先生の紹介で「地方創生☆政策アイデアコンテスト」に参加することになり、そのとき初めてリーサスのことを知りました。

このコンテストはリーサスが起点となります。すぐに使えるようになりましたか？

渡辺 すぐ慣れました。リーサスは誰でも使えます。画面を見れば自然にわかるようになっていました。

山貝 戸惑ったのは単語ぐらいですね。メッシュ分析って何だ？とか。それも使ってみれば「ああこういうことか」ってなりますけど。

皆さんはパソコン操作が得意ですか？

加藤 そういう人もいますが、ほとんどの部員は苦手ではないけど特

別得意というわけでもありません。リーサスを使うにはそれでOKです。
リーサスを扱うのは難しいのでしょうか。皆さんは、うまく使いこなせましたか？

関 まず福島の人口や産業、観光について、基本的なことをリーサスで調べました。私は東日本大震災の影響で福島に来る観光客が減ったのかと思っていましたが、結果はちよつと意外で、その前から観光客は減少していたことがわかりました。

八巻 果物の生産も同じです。農林水産業マップで果樹類の販売金額を調べたら、震災前から減っていて驚きました。

糸口が見つかったのですね。

八巻 リーサスでさらに他のデータ



を調べていくと、少子高齢化で農家の後継ぎがいなくて生産者が減っていることがわかってきました。

加藤 ひととおり調べたところで、結果をみんなで共有して話し合いました。私たちは思っていたら何でも言うことにしていて、それを「つぶやき」と呼びます。つぶやきは大事で、どんよりし始めたときに誰かのひとことで話が進み始めたりします。

八巻 今回も「おやつで桃とか梨食べないよね」という誰かの言葉が、「生産量の減少には食の変化も関係あるかも」という気づきにつながりました。

リーサスで確認した傾向を現実の世界につなげていく部分ですね。

佐藤 実際にどうなっているのかは、その仕事をしている人に聞いてみないとわかりません。それで、農業や

上段右から
渡辺さん
佐藤さん
山貝さん
下段右から
八巻さん
加藤さん
関さん



観光に携わっている人から聞き取りをしりました。

渡辺 話を聞くと、リーサスだけではわからないことが見えてきます。飯坂温泉で観光協会の方を取材したとき、「観光客は減っているが、今は除染作業員の人たちで部屋は埋まっている。問題はそれが終わった後なんだ」というお話がありました。

コンテストの準備は順調に進みましたか？

関 いろいろ準備したのですが、プレゼンテーションの時間が5分なので、絞り込みが大変でした。コンテ

スト当日も新幹線が東京に着きざりまで、何度も時間を計って練習を繰り返しました。

加藤 パワーポイント担当の先輩も、いかに情報を絞って見やすく伝えるか、リーサスのグラフの配置などを何度も手直ししていました。

本番は思い通りにできましたか？

渡辺 みんなで準備したことをやり切らなければという思いでした。全員とても緊張したし、小柄な八巻さんが時計が見えなくて焦る事件もありましたが（笑）、最後は先輩がうまくまとめてくれました。

関 高校生の発表はみんなレベルが高かったので、大臣賞を受賞した時は本当に驚きました。

みごとに成果でしたね。その後のイノベーション部の活動はどうなっていますか？

佐藤 目標だった福島市の魅力を伝えるツアーを実現し、みんなでガイドを務めました。私は人と話すのが得意なほうではありませんが、参加してくれたお客さんに満足してもらいたくて必死でやりました。皆さんが反応してくれるので気持ちが楽になって、思ったよりうまく話すことができました。当日は大雨になってしまったのですが、お客さんたちには楽しんでいただけたかなと思います。

成長し、郷土への思いを深めた生徒たち

福島市立岳陽中学校 角田直之先生

「地方創生☆政策アイデアコンテスト」への参加は、それだけでなく多忙な中学生たちにとって不安な挑戦でした。しかし彼らはそれを最高の形でやり遂げました。

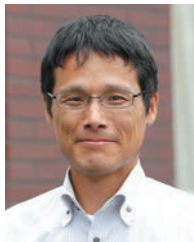
なぜできたか？ 思えば三つの要因が浮かびます。

第一に、リーサスが想像以上にわかりやすく、全員がすぐに使いこなせたことです。問題点の把握と次への展開がスムーズに進みました。

第二に、目標を得た生徒たちの熱意です。限られた時間で全員が本当に最善を尽くしました。

第三に、中学生の間から「きれいなことではなく、実行できる提案をする」という方針が出てきたことです。これにより作業の方向性が明確になり、審査でも評価していただき、大会後の福島市紹介ツアーの実践にまでつながりました。

部員たちに成長の機会を作ってくれた皆さん、惜まず協力してくださった方々に感謝します。彼らはこの挑戦で郷土への思いを深めました。



山貝 今は地方創生についての提案づくりが続いています。リーサスを使っているうちに、グラフを動かしながら「何でこうなのかな」と、現実とのつながりを考えるようになってきました。

加藤 リーサスはとても便利です。市町村のデータも出るし、他の町との比較もできるので、いろいろな思いつきがあります。

八巻 まだ気づいていないことがたくさんあると思うので、これからの活動が楽しみです。

今年も熱い挑戦を！

地方創生☆政策アイデアコンテスト 2016

主催：内閣府地方創生推進室

福島市立岳陽中学校が大臣賞（高校生以下の部）を射止めた2015年に続き、今年も「地方創生☆政策アイデアコンテスト」を開催します。全国の大学生、高校生、中学生、そして社会人の大人の皆さんも、リーサスを武器に、この心と知力の競演にぜひ参加してください。地域を元気にする多彩な政策アイデアの登場を期待しています。

- 募集区分** (1) 高校生以下の部
(2) 大学生以上一般の部
- 条 件** 必ずリーサスを活用し、その分析に基づいた政策アイデアを提案すること

審査プロセスとスケジュール

- ① 応募受付 平成28年10月1日（土）～11月13日（日）
※コンテストウェブサイト内の応募フォームより
- ② 地方予選 平成28年11月14日（月）～12月9日（金）

全国の8つの地域で書類審査を実施

- ① 北海道
② 東北（青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県）
③ 関東（茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県、長野県、静岡県）
④ 中部（富山県、石川県、岐阜県、愛知県、三重県）
⑤ 近畿（福井県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県）
⑥ 中国（鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県）
⑦ 四国（徳島県、香川県、愛媛県、高知県）
⑧ 九州・沖縄（福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県）
- 各地域から各部門3組が全国大会に進出（各部門3組×8地域＝24組 両部門計48組）

- ③ 全国第一次審査 平成28年12月10日（土）～12月22日（木）

書類審査を実施

→各部門5組（両部門計10組）が最終プレゼン審査に進出

- ④ 全国最終審査会 平成29年1月21日（土）

会場：東京大学 伊藤国際学術研究センター 伊藤謝恩ホール
各部門5組（両部門計10組）のプレゼンテーションを実施

※書類にプレゼンの評価を加味して各部門の地方創生担当大臣賞1組、優秀賞1組を決定

※詳細は、リーサスの情報発信サイト「RESAS ポータル」をご覧ください。

<http://resas-portal.go.jp/>



地方創生担当大臣賞 福島市立岳陽中学校 岳陽中学校イノベーション部 中学生の視点から地域の魅力を再発見し、観光プランを作る

2015年のコンテストで地方創生担当大臣賞を受賞した福島市立岳陽中学校の政策アイデアはいかにして作られたのか。

イノベーション部員たちは自らの仮説を出発点として、まずリーサスを使って、福島市の果物の生産と人口の変化について調べました。すると、予想とは違う現実があるらしいことがわかりました。ここで彼らは現場に繰り出して人々から話を聞きます。そうして得た情報を確認するために再びリーサスに戻って、今度は観光について調べます……。

このようにリーサスと独自の調査活動を往復しつつ、現状把握を深めていくことで、中学生の視点を生かした魅力的な観光プランの提案に到達しました。

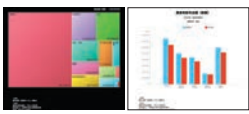


1 出発点の仮説

福島市はおいしい果物がたくさんとれるし、近くに魅力的な温泉もある。観光業は盛んなはずだけれど、震災の影響で果物の収穫も観光に来る人も減ってしまったのではないか。

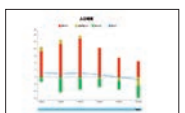
2 リーサス「農林水産業マップ」で確認

わかったこと「震災の前から福島市の果樹類の販売金額は減っている。福島市に限らず、県内の他のまちでも減っている」



3 リーサス「人口マップ」で確認

わかったこと「福島市の人口は2000年過ぎから減り始めた。しかも、いちばん減っているのは生産年齢人口だ。果物を生産している農家の後継者がいないのではないか」



4 聞き取り調査

地元の農家、農協の人、飯坂温泉観光協会の人に話を聞く。
わかったこと「後継者難の確認、果物の消費が減っていること、旅館には観光客ではなく除染作業の人たちがいること」

5 政策アイデアの芽

福島の名産品、果物と観光を結びつけた活動ができないか。

6 小中学生アンケート調査

テーマ
「地元の子供たちは福島市を知っているか」
結果
「よくわかっていない。自分たちもそうだ」

7 リーサス「観光マップ」で確認

福島市に来る観光客は近隣の県、関東と東北からがほとんどだ。海外の観光客は東京には来るが福島には来ない。それどころか、西日本の人もあまり来ない。
結論
「福島は知られていない」



8 政策アイデア確定

中学生の視点で「福島市の魅力あふれる旅行プラン」を作成。実行して自分たちがガイドも務める。
目的
「まず自分たちが福島市を知る。そして、ツアーを通じて福島市の魅力を知ってもらう」

優秀賞 大口明光学園高等学校・チーム高2B

「“そんな出会い、牛さあつなぎもす”プロジェクト」

鹿児島県伊佐市の重要産業である肉牛の子牛の生産を守るプロジェクトの提案です。

耕作放棄地を利用して牛を飼い、ネットによる遠隔管理で作業効率を上げます。こうして魅力ある仕事にしたい

えで従事する若者を募集します。シェアハウスを提供して居住してもらうことでカップルの誕生を促し、結婚→出産となれば、人口減少への対策にもなります。牛の飼育が軌道に乗るまでは高校生が遠隔管理にあたります。

佐渡市の取り組み

新潟県佐渡市
人口：57,768人
面積：855.61 km²
(2016年9月1日現在)



リーサスはすでに地方自治体でも活用が始まっています。自治体にはより緻密な、地方創生の施策づくりに直結するデータが提供されています。しかし、リーサスと現実の間を往復しつつ政策を練り上げるプロセスは、岳陽中学校イノベーション部の場合と本質的に同じです。リーサス活用に熱心な自治体の一つである新潟県佐渡市のケースを見てみましょう。

豊かな自然に恵まれた佐渡市をもっと元気にするために——リーサスへの期待

佐渡市 伊藤光 副市長



「トキのすむ島」佐渡は豊かな自然に恵まれています。名高いコシヒカリに代表される農業、寒ブリで知られる漁業など、第一次産業の生産力も健在です。さらに、世界遺産登録をめざす佐渡金銀山というよく管理された文化遺産も有しています。

その一方で、離島という条件からくる交通、流通面でのハンデをどう乗り越えるかが課題としてのしかかっています。

こうした状況に対処する施策を構築するには、正確で鮮度の高い情報が必要です。私たちはその意味でリーサスに大きな期待をかけています。リーサスは「情報過疎」になりやすい地方の状況を改善するだけでなく、政策立案に欠かせない様々なデータ処理の機能が充実しており、担当者にとって活用し易いところが優れた特徴であると感じています。実際に、導入わずか一年で、これまでにない政策を立案し、実行に移すことができました。これは期待していた成果を生んでいます。

リーサスにはまだ様々な可能性が隠れています。今後はその活用の幅を広げ、より精度の高い振興策を打ち出していければと考えています。

リーサスを起点に佐渡市の現在と未来を考える

佐渡市役所 総合政策課 地方創生推進室
岩崎洋昭 室長／中川拓也 主任



Q 佐渡市がリーサス活用に熱心に取り組んできたのはなぜですか？

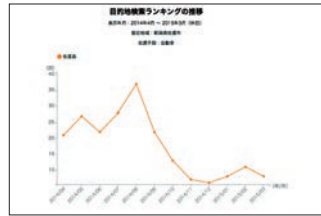
これまでの施策策定は頼るべきデータベースがないために、経験や勘に頼る部分がありました。状況を正確に把握するには客観的なデータを用いる必要があることを痛感していたので、リーサスには期待していました。昨年四月に提供が開始され、

実際に使ってみると、数値の裏付けによって課題が明確に見えてきます。あらゆるデータを使うことができるので政策立案もし易くなり、非常に役立っています。ただしリーサス自体にも、データの鮮度（最新とは限らない）、母数が項目によって少ないことなど課題があると思います。こうした点が改善されていくのを待ちたいと思います。

Q リーサス活用がどのような施策を生んだか、具体的に教えてください。

佐渡市では観光振興が優先度の高い課題です。平成3年のピーク時120万人だった観光客が現在は50万人に落ち込んでいるのです。まずリーサスで現状を把握することからスタートしました。「観光マップ」機能を活用し、「メッシュ分析」

「from」to分析「目的地分析」等で佐渡市を多角的に見ていくと、概ねこれまで経験的に感じていたことにデータの裏付けを得ることができました。しかし一方で、数字で厳しい現実を目の当たりにし、対策の必要性を再認識した部分もありました。また、項目によっては私たちの印象以上に事態が進んでいるものもありました。



目的地分析 (観光マップ)
 観光ランキング月次推移。車で移動する人の佐渡への関心は夏場高いが、11～3月は落ち込んでいる。

目的地分析 (観光マップ)

実際の立案プロセスを紹介しましょう。リーサス「観光マップ」で鮮明に見えたのが冬場の落ち込みです。佐渡島は本州日本海沿岸地方に比べて冬は穏やかで、観光地としての魅力はあるはずですが、実際には集客できていませんでした。考えられる理由は2つ。主因はやはり冬の佐渡の良さが知られていない



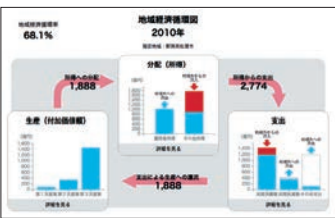
こと、もうひとつは季節的に船の欠航リスクがあることです。そこで調査も兼ねて観光ツアー「佐渡冬紀行」を官民の協力で企画しま

した。特産品のベニズワイガニや高級魚ノドグロを賞味できる宿泊プランで、トキの森公園、佐渡金山等もめぐるバス観光のオプションもあります。欠航保障もつけました。結果は予想以上の盛況で好評をいただき、打つべき手はまだあるのだと改めて認識しました。冬場に集客できれば通年の雇用改善、島の活性化につながるので今後も取り組みを続けていきます。

Q 観光以外の分野の現状はいかがでしょうか。

リーサスの「人口マップ」「地域経済循環マップ」などを中心に分析を進めているところ。とりわけ「地域経済循環図」によって、島からお金が外に流れ、還流してきているという経済構

地域経済循環図 (地域経済循環マップ)



佐渡島のお金の流れを「見える化」。約1/3が島外に流出していることがわかる。

造の問題が明らかになりました。島内でお金が循環する仕組みを作る必要があると考えています。小回りの利く部分もある観光分野と違い、人口や産業は構造的な問題なので、腰を据えて取り組んでいくしかありません。具体的な施策の策定は今後の課題です。

Q 佐渡市ではリーサスの普及活動も積極的に行っていますね。

リーサスの普及活動は、佐渡市の現状や課題を島民の皆さん、とくに将来を担う中高生に知ってもらうことを目的としています。リーサスを媒介として、世代や立場を超えて問題意識を共有したいと考えています。

これまでに、学校での出前講座や一般向けのフォーラムを開催しました。フォーラムでは20～50代の地元の方だけで300席が埋まるほどの盛況でした。島内の高校生によるリーサスを活用した政策提案のブレゼン、内閣府の方による佐渡市をリーサスで分析する企画、地元の商工関係で活躍している皆さんによるパネルディスカッションなどが行われ、反響は上々でした。

これらの普及活動を通じて見えた



用すれば、観光客の動きをより精緻に把握し、有効な振興策を打つことができるでしょう。

Q これからのリーサスの活用について、どのようなプランがありますか？

リーサスをモデルとして、地域密着の独自のデータベース「佐渡版産業マップ」づくりに着手しました。現在、島内の4000事業所および島民へのアンケート、ヒアリングを実施しています。このデータベースの運用が始まれば、地域経済行動分析を行って、懸案の産業振興策の策定に進むことができます。当市は地産地消のしくみが不十分なので、まず、そこに取り組みたいと思います。

もう一点、佐渡と本州をつなぐ佐渡汽船と連携して、汽船の利用者データベースを構築することを考えています。これをリーサスと共に活用すれば、観光客の動きをより精緻に把握し、有効な振興策を打つことができるでしょう。



そうだったのか！
RESASでわかる
私たちの地域



内閣府

RESASに関する最新の情報はこちらから

RESASポータル <http://resas-portal.go.jp/>

イラスト：こばやし たけし

編集・製作協力：株式会社学研プラス